火災そのとき

■「わが家」も「お隣」も 絶対に火を出さない！

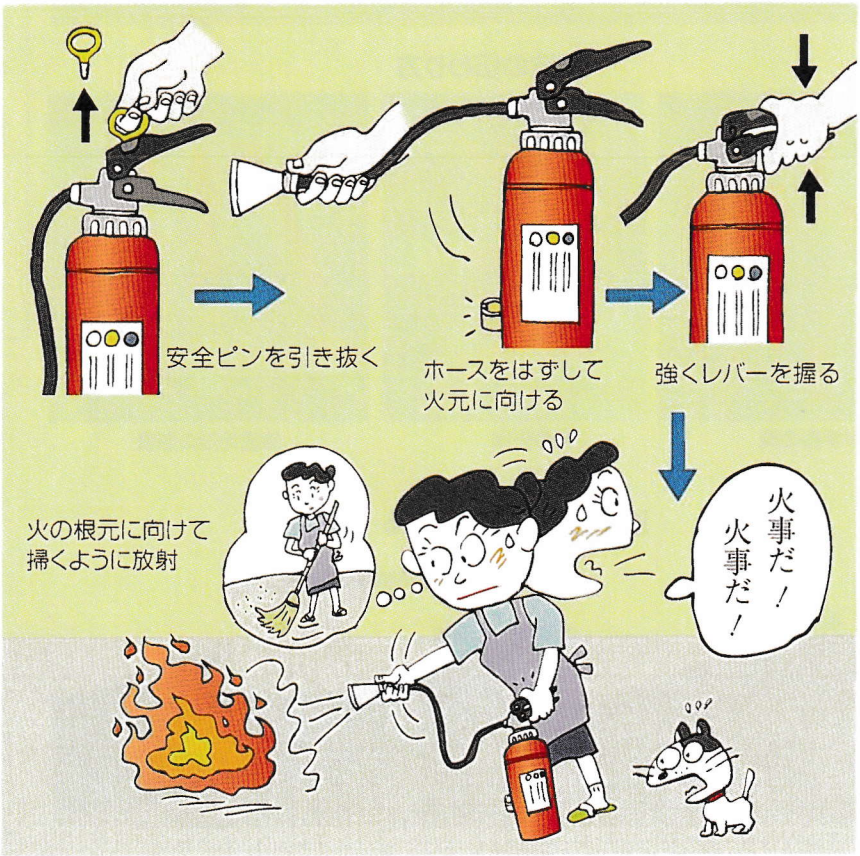
▶「ＩＨ（電磁調理器）」と「高強度コンクリート」は高層マンションの安全文化を変えた――と言われますが、それも「正しい使い方」を守ってこそです。地震に続く火災は最悪の「二次災害」です。「絶対に火元にならない」というお互いの意識はいささかも崩せません。

▶ローソク、ガスコンロ、反射型ストーブなど独自の“火種”の使用には、日常から十二分の注意を払いましょう。最近のストーブ類は倒れると同時に消える仕組みになっていますが、そのままにしておくと後刻、熱い部分に触れていた新聞紙やカーテンなどから発火するケースが指摘されています。

万一、火を出してしまったら、炎が小さい数分のうちは消火器で消せます。大声で「火事だ、火事だ」と近所中に知らせながらです！

▶さらに各フロアの表側通路部分に一人で簡単に操作できる消火栓（11～31階にそれぞれ４～５カ所ずつ。赤ランプ表示の下側ボックス内）があります。他に連結送水管（これはプロ消防士用）なども備わっています。

■停電中でも火災報知器は機能する

▶火災報知器は各戸の各部屋（天井部分）にあります。蓄電池により「熱感知」すると、停電中でも中央管理室へ即刻知らせるシステムになっています。

この他に緊急事態を告げる方法は、各戸のリビング壁面にあるインターフォン上部の「非常ボタン」です。が、これは停電中は使えません。